





## 本紙特報

## ゴヤス視察記事を続報

投書事件の内幕曝露

サンパウロ新聞も乘せられたと憤慨

平和なる社會を、法的裏をくぐつて攪乱する者、それは社會の忌むべき公敵として道德的制裁をして

奥へて可く断乎して詮説を加へ以て、社會の不純分子を葬り世を明朗となさんとするは公然たる本紙の社會的使命の一つである。

茲に何に血迷つたか、事は自ら暴露したアーノ高須とやらの愚か者のあつた事を同業サンパウロ新聞に掲載せしめ、惡の一味の正体を自ら暴露したアーノ高須とやらの愚か者のあつた事を同業の面上遺憾とする尤も高須と云ふ名の投書をボルギ氏勸奨の下に本紙に掲載せるガス視察記事とは知らず、種々離譙をつけた全く見當違ひの一投書文を同業サンパウロ新聞に掲載せしめ、惡の一味の正体を自ら暴露したアーノ高須とやらの愚か者のあつた事を同業の面上遺憾とする

を加へ以て、社會の不純分子を葬り世を明朗となさんとするは公然たる本紙の社會的使命の一つである。

茲に何に血迷つたか、事は自ら暴露したアーノ高須とやらの愚か者のあつた事を同業の面上遺憾とする

本社長が右の手紙を読み終

つた頃生島某は再び口を開き、丁度その手紙に附加す

るよう「高須氏はスザン

ノの出で今は聖市に居るが餘物質には恵まれない人であつて、それに原田氏と仲の良い方でない故に放任して指しては結果が好くなりつけはいかないから、一

其處は金で折合ひ付けた方が早道だと思ふ

が免ざなければ良いがよさ

へ思はれて來た

其の時だつた社長は生島某に向ひ「この問題の中核は

が免ざれば良いがよさ

へ思はれて來た

其の時だつた社長は生島某に向ひ「この問題の中核は

が免ざれば良いがよさ

へ思はれて來た

其の時だつた社長は生島某に向ひ「この問題の中核は

が免ざれば良いがよさ

へ思はれて來た

其の時だつた社長は生島某に向ひ「この問題の中核は

が免ざれば良いがよさ

横行する不徳分子に断る

サントラ

新

聞

も乗せられたと憤慨

ので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

かり山額でなくとも

コレントを益み去つた

ことだつて後悔して來

るのを知つた

北ハーナ、アリカンツーバー

一、聯合日本會々館建設

建設費は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

するので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

かり山額でなくとも

コレントを益み去つた

ことだつて後悔して來

るのを知つた

北ハーナ、アリカンツーバー

一、聯合日本會々館建設

建設費は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

するので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

かり山額でなくとも

コレントを益み去つた

ことだつて後悔して來

るのを知つた

北ハーナ、アリカンツーバー

一、聯合日本會々館建設

建設費は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

するので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

かり山額でなくとも

コレントを益み去つた

ことだつて後悔して來

るのを知つた

北ハーナ、アリカンツーバー

一、聯合日本會々館建設

建設費は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

するので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

かり山額でなくとも

コレントを益み去つた

ことだつて後悔して來

るのを知つた

北ハーナ、アリカンツーバー

一、聯合日本會々館建設

建設費は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

説募は各支部に於て勧

するので聴いている記者も、

何をか問題段々不純な

と云ふので生島某に其の結

果が十八日のサンパウロ新聞

開記事となり、本紙も是れ

では捨てつけずと準備を

凝らせし處で仲裁者が現は

紙を利用しての金取主義は日

に報道者たる者は日

に何をか好んでの上にし

原田氏に話しての上にし

# **NOTICIAS DO BRASIL.**

Diretor-Interino e Proprietario: SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redação, Administração e Oficina: Rua Caramurú, 63 — Caixa Postal, 3148 — São Paulo

N.º 2.825

ANO XXXII

SÃO PAULO, Segunda-feira 21 DE FEVEREIRO DE 1949.

**Circula às Segundas, Quartas e Sextas**

踊子は竹束の所まで引返すと、また走つて來た。今度は中指位の太さの竹を私にくれた。そして、田の畦に背中を打ちつけるように倒れかゝつて、苦しそうな息をしながら女達を得つていた。私は榮吉とは絶えず五、六間先を歩いていた。「そなは、抜いて金歯を入れさへすれば何でもないわ」踊子の聲がふと私の耳に入つたので振返つて見る。おどり子は千代子と並んで歩き、おふくろと百合子とがそれによし優れていた。私の振返つたのを氣づかぬいらしく千代子がいつた。「それはそう、そう知らしてあげたらどう？」私の喰らしない、千代子が私の齒並びの悪いことをいつたので、踊子が金歯を持ち出したのだらう。顔の話らしいが、それが苦にもならないし、頭耳を立てる氣にならない程に、私は親しに氣持になつてゐるのだった。暫く低い聲が續いてから踊子のいふのが聞えた。「いゝ人ね」

端康成の踊子(9)

つた。私は藝人たちの後  
ら屋根裏のようないふらつた、天井がなく、衝道  
内つた窓際に坐るる屋根裏に坐るる屋根裏に坐る  
が頭につかえるのだつた。「肩はいたくないかい」  
おふくろは煙子に煙草も  
目を閉じていた。  
「手は痛くないかい」  
おふくろは太鼓を打つ時の  
手真似を見た。  
「痛くない、打てるわ  
打てるね」  
「まよわかたね」  
私は太鼓を下げて見かけ  
「おや重いんだな」  
「それはあなたの思つて  
るより重いわ、あなたの  
パンツより重いわ」と、踊  
が笑つた。  
藝人たちは同じ宿の人  
と眼鏡から挨拶を交してい  
やぱり藝人や番匠師のよ  
な連中ばかりだつた。  
下田の港はこんな渡り  
の橋であるらしかつた。  
子はちよこ／＼部屋へは  
つて來た宿の子供に銅貨渡  
やつていて、私が甲州屋  
出ようとする、彼女が外  
開に廻りしでいて下駄箱  
揃へてくれながら  
「活動に連れて行つて下  
いね」と、またひとり言  
いように笑いた。  
無賴漢のよう男に塗  
まで路を案内して貢つて  
私と榮吉とは前町長が大  
京に歸らなければならぬ  
のだった、旅費がもうな  
なつているのだった、學  
の都合があつといつたの  
藝人強ひて止める事  
出来なかつた。

晝飯から三時間と経つ  
いうちに夕飯をすませて  
私は一人下田の北の構内  
つた、下田富士に憩むた  
て港を眺め、歸りに田  
屋へ寄つて見ると、藝人  
ちは鳥餌で飯を食つてしま  
ところだつた。

「口でも召上つて下さ  
ませんか、女が箸を入れ  
汚いけれども、笑ひ話の  
になりますよ」

「おふくろは、日本文  
化茶碗と箸を出して、ア  
子に洗つて来させた